

東北大学基金「感謝のつどい」で特別講演を行いました（2021/12/9）

テーマ：東日本大震災、文理連携研究

場 所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市青葉区）

URL：<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/kikin/japanese/>（東北大学基金）

2021年12月9日（木）13:30～15:30、東北大学基金「感謝のつどい」が開催されました。「感謝のつどい」は、東北大学基金が主催するイベントで、基金への寄附者の方々をお招きして日頃のご支援に感謝し、東北大学基金の活動や学生の声、東北大学の教育研究についてもお伝えするものです。東日本大震災から10年となる今年、「感謝のつどい」は、震災を受けて設立された災害科学国際研究所棟で開催されることになりました。

当日は、功労賞等贈呈式、基金事業報告、学生チャレンジクラウドファンディング挑戦の発表につづき、大野英男総長が「震災後10年を経て、これから本学が目指すもの」と題して講演を行いました。その後、当研究所の蝦名裕一准教授（災害文化アーカイブ研究分野）が「歴史が導く災害科学の新展開」と題した特別講演を行い、1611年に東北地方太平洋沖沿岸を襲った慶長奥州地震津波の研究や、過去の疫病流行に学ぶ「疫病退散プロジェクト」について紹介しました。蝦名准教授は会場で、疫病退散プロジェクトでも使われている石碑を読み取る「ひかり拓本」の見本や、過去の津波の来襲履歴を示す地層剥ぎ取りなどの展示を行い、休憩時間に来場者の方々からのご質問に答えました。

「感謝のつどい」へは54名の方に来場いただき、52名の方にオンラインでご参加いただきました。



大野総長



蝦名准教授（特別講演）



展示の様子



展示の様子